

1. 目的

新型コロナウイルス感染症拡大に起因する学生生活や修学環境の変化により、経済的に困窮した学生等を支援する大学等に対して、当該支援に係る事業費の一部（1/2以内）の額を助成し、もって各大学等が独自に支援を実施する取組みを推進することを目的として実施する。

2. 概要

(1) 助成規模 約2億円

(従来から受け入れてきた「学生支援寄附金」を原資とする。)

(2) 実施時期

2021年3月～2021年12月

(3) 対象の学校種別

大学、大学院、短期大学、高等専門学校（4・5年生）、専修学校専門課程、日本語教育機関、外国大学日本校

(4) 対象事業

①「食」に対する支援：学生生活を送るための食費（現物支給を含む）の支援

※ 感染防止の観点から、すでに対面授業を中心としている学校、今後対面授業を中心とする学校（約7割以上を目指すもの）が対象

②「住」に対する支援：家賃や契約時の費用等の住の支援

※ 対面授業再開（約7割以上を目指すもの）に向けて、キャンパスに戻ってくる学生への住の支援を行う学校が対象

(5) 助成額

1校あたり10万円以上100万円以下（支援事業を実施するために必要な経費の1/2以内）

(6) 学校から学生への助成方法

金銭又はこれに類するもの、現物支給による経済的支援であること

(「住」に対する支援については一人あたり5万円を上限、「食」に対する支援については上限なし)

3. 支給実績

対象となる学校4,409校のうち、306校が事業を実施。

(内訳) 大学125校、短期大学26校、専修学校専門課程82校、日本語教育機関72校、外国大学日本校1校。

助成金による学生等への支給実績は **約1.75億円**（参考）学校からの申請額計：約1.87億円

4. 実施結果 ※ 学校における主な取組の例

(1) 「食」に対する支援

① 金券等の配布

ex)「お米券」「Q U Oカード」「生協電子マネーチャージ」「学内売店のみ使用可能な金券」の配布

② 学食等の割引

ex)「100円朝・夕食の実施」「学内食堂の食券配布」「食堂・購買における弁当の割引」等

③ 現物支給

ex)「米」「カップ麺」「レトルト食品」「缶詰」「野菜」「果物」の支給

(2) 「住」に対する支援

① 家賃等補助(現金支給)

ex)対面授業の再開に向け、改めてキャンパス周辺で生活を始める際に生じる費用(家賃、敷金、引越費等)の補助や、自宅からの遠距離交通費の補助



② 「食」の支援にかかる学食等の割引例
ex) (仁愛大学)「百円丼フェア」



③ 「食」の支援にかかる現物支給例
ex) (国立音楽大学) 食料品等支援品の給付



③ 「食」の支援にかかる現物支給例
ex) (ASAHI文化学院) お米・レトルトカレーの給付



③ 「食」の支援にかかる現物支給例
ex) (川崎医療福祉大学) 100円弁当 & 100円パンセット

5. 支援を受けた学生からの声

- アルバイト収入が減少し、食費から節約していますが、研究も忙しい中で自炊することもなかなか難しいため、大学での食事支援はとても助かりました。
- 実家からの仕送りが減ったので助かりました。
- 今回はこのような配慮をいただきありがとうございます。勉学に励み社会人になってから同じような状況の学生を支援できるように、精一杯頑張ります。
- 食費を削って生活しているので、今回の支援はとても助かりました。
- 学費を払ってくれている家族の負担が少し減った。
- 1日3回食べられない日も続いていたのでとても嬉しいです。関係者の皆さま、今回に限らず多くの支援をありがとうございます。
- アルバイトの募集が無く、お金が無いのでとても助かった。
- 今回の支援によって、毎日県境を跨ぎ電車で登下校せずすみ助かりました。
- 食費の心配が減り、勉強に打ち込める環境が出来たことはありがたいです。
- コロナ禍で大変な中、食料支援して下さいありがとうございます。将来、私も誰かのためになれる活動に積極的に参加したいと思います。
- コロナで困っている学生に寄り添っていただき、ありがとうございます。



他にもたくさんの感謝の声やご意見をいただきました。